

## 5月下旬移植「コシヒカリ」の穂肥施用法

作物部作物科 月森 弘



本県の「コシヒカリ」は、平成10年以降乳白粒の発生が問題となったため、対策として県平坦部を中心に5月下旬植えを推進してきました。

5月下旬に移植すると従来の上～中旬植えの「コシヒカリ」と比較し草丈はやや長く、茎数は少なく、葉色値がやや高くなります。このように生育経過が大きく異なり、新たな生育診断基準が必要となったため、平成12～14年に穂肥の施用法に関する試験を行い、生育診断基準を作成しました。

は少なく、葉色値がやや高くなります。このように生育経過が大きく異なり、新たな生育診断基準が必要となったため、平成12～14年に穂肥の施用法に関する試験を行い、生育診断基準を作成しました。

表1 平坦部（標高300m未満）穂肥窒素量早見表

		幼穂形成期葉色(上段: SPAD502測定値、下段: 葉色板群落測定値)					
		30 (3.0)	32.5	35 (4.0)	37.5	40 (5.0)	42.5
幼穂形成期 茎数 (本/m <sup>2</sup> )	300～319						
	320～339						
	340～359		3kg/10a				
	360～379						
	380～399						
	400～419			2kg/10a			
	420～439				1kg/10a		
	440～459					無施用	
	460～479						
	480～499						

注) 葉緑素計による葉色調査では完全に展開した上位から2葉目を測定する。

幼穂形成期の生育により表1に従って施肥すると、概ね県の目標値を達成できることを現地で実証しました(詳しくは農業試験場だより102号、5ページを参照)。

また、生育診断により穂肥窒素施用総量が、1kg/10aの判定となった場合は、表2のように出穂前20～10日に1回施用すると品質が高まることが明らかになりました。

### 穂肥施用マニュアル適用上の留意点

地力診断により適正に基肥を施用し、健苗育成、適正な植付本数(3～4本/株)、水管理等基本技術の励行により早見表に適合する草姿の「コシヒカリ」に育てるよう努めて下さい。

表2 施肥回数が登熟歩合、品質に及ぼす影響(2002年)

穂肥時期 (出穂前 日数)	施肥 回数	登熟 歩合 %	整粒 歩合 %	乳白 粒率 %	検査 等級
20日	1	85.2	75.0	1.5	1中
20日・10日	2	84.9	76.7	1.8	1下
-----					
15日	1	86.3	74.4	1.6	1中
15日・5日	2	84.3	72.4	1.4	1下
-----					
10日	1	88.1	74.9	1.5	1中
10日・0日	2	85.2	73.7	1.3	1下

注) 穂肥窒素量は1kg/10a、2回施肥は等量に分施した

